

平成27年度
定期総会資料

と き 平成27年8月28日（金）11時00分～

ところ 下呂温泉旅館会館 3F 白鷺の間

高山本線強化促進同盟会

総会次第

1 開 会

2 挨拶

3 祝電披露

4 議 事

議案第1号 平成26年度事業報告について

議案第2号 平成26年度収支決算について

議案第3号 平成27年度事業計画（案）について

議案第4号 平成27年度収支予算（案）について

5 決 議

6 そ の 他

7 閉 会

平成26年度事業報告書

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日

年 月 日	事 業 内 容
26. 6. 6	第1回幹事会を開催し、定期総会の日程、提出議案、80周年記念事業案を協議
26. 8. 26	<p>定期総会を開催し、平成25年度事業報告及び同収支決算並びに平成26年度事業計画(案)及び同収支予算(案)を審議決定(富山市)</p> <p>[決議]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 北陸新幹線及びリニア中央新幹線の開業を視野に入れ、所要時間の短縮や列車本数の増加など、旅客輸送サービスの強化改善を推進すること。 2 輸送の安全、防災対策を充実させるため、あらゆる角度から強化改善を検討し、事故防止に努めること。 3 安全で快適に利用できる鉄道施設・車両等のバリアフリー化を推進すること。 <p>定期総会に引き続き、「北陸新幹線及び富山駅周辺整備について」事例発表を実施。</p>
26. 10. 1 ～	高山本線全線開通80周年記念・駅プラン「高山散策」
26. 11. 30	
26. 10. 25	高山本線全線開通80周年記念列車出発式、列車歓迎イベント
27. 2. 12	東海旅客鉄道株式会社と岐阜県副知事による意見交換実施(名古屋市)
27. 2. 17	西日本旅客鉄道株式会社に対し、富山・岐阜両県副知事による要望実施(大阪市)
27. 2. 20	東海旅客鉄道株式会社に対し、要望実施(名古屋市)
27. 3. 13	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社に対し、要望実施(金沢市)

平成26年度決算書

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差引増減 (△)額	摘要
1 負担金	368,000	368,000	0	19団体
2 特別負担金	600,000	600,000	0	富山県・岐阜県(各300,000円)
3 繰入金	600,000	600,000	0	80周年積立金
4 繰越金	205,907	205,907	0	前年度繰越金
5 雑入	100	301,453	301,353	預金利息 80周年記念事業1日フリー乗車券未使用分返還
計	1,774,007	2,075,360	301,353	

支出の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差引増減 (△)額	摘要
1 会議費	150,000	39,160	△110,840	総会経費、JR西日本要望活動経費等
2 事業費	1,600,000	1,467,785	△132,215	80周年記念事業経費
3 事務費	9,007	3,960	△5,047	振込手数料
4 負担金	10,000	10,000	0	全国鉄道整備促進協議会負担金
5 積立金	0	0	0	記念事業積立金
6 予備費	5,000	0	△5,000	
計	1,774,007	1,520,905	△253,102	

収入合計 2,075,360円

支出合計 1,520,905円

差引残高 554,455円(平成27年度へ繰越)

80周年記念事業の部

(単位:円)

前年度までの積立額 (a)	26年度取崩額 (b)	26年度末残高 (a)+(b)
600,000	△600,000	0

監査報告書

高山本線強化促進同盟会会則第7条第5項の規定により、平成26年度決算について、監査を実施し、証拠書類、帳簿などを精査したところ、適正に執行されていたことを認めます。

平成27年4月30日

監事 下呂商工会会長 中川 正之

平成27年4月30日

監事 富山市八尾山田商工会会長 川原 敏彦

高山本線強化促進同盟会

会長 岐阜県知事 古田 肇 殿

(原本は事務局にて保管)

平成27年度事業計画（案）

1 基本目標

高山本線は、これまで我が国のほぼ中央部において日本海側と太平洋側を結ぶ大動脈としての役割を担い、沿線各地はもとより中部圏全体の交流の活発化を図り、経済・文化の発展、向上に寄与してきた基幹鉄道である。

平成27年3月14日に北陸新幹線の長野ー富山・金沢間が開業され、平成39年にはリニア中央新幹線の東京ー名古屋間の開業が予定されており、これまで以上に地域間の交流・連携が図られる。

また、高山本線は沿線に多くの観光地を有するとともに、車窓風景も美しい「観光路線」であり、平成24年1月より始まった外国人観光客誘致のための「昇龍道プロジェクト」の取り組みと相まって、北陸と東海を内陸で結ぶその重要性はますます高まるものと期待される。

なお、平成23年3月に発生した東日本大震災は、各地で甚大な被害をもたらし、交通機関にも大きな打撃を与えたが、高山本線においても、東南海地震の今後50年以内の発生が確実視されており、大規模災害時にも社会基盤としての機能を損わないような設備・体制の整備をこれまで以上に促進していく必要がある。

こうした情勢を踏まえ、本同盟会は一致協力し、高山本線の旅客輸送サービスの強化改善、大規模災害を視野に入れたより一層の安全確保に向けた取り組みを展開していく。

2 活動項目

- (1) 東海旅客鉄道及び西日本旅客鉄道に対する要望
- (2) 高山本線の利用者増に向けた広報・啓発活動
(27年度は、高山本線利用促進PR事業を実施)
- (3) 全国鉄道整備促進協議会等の関係機関との連携及び情報収集活動
- (4) その他本同盟会の目的達成に必要な事項

平成27年度収支予算 (案)

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

収入の部

(単位：円)

科 目	平成27年度 予 算 額	平成26年度 予 算 額	比較増減 (△) 額	摘 要
1 負担金	368,000	368,000	0	19団体
2 特別負担金	900,000	600,000	300,000	両県 600,000 5幹事市 300,000
3 繰入金	0	600,000	△600,000	80周年積立金
4 繰越金	554,455	205,907	348,548	前年度繰越金
5 雑入	100	100	0	預金利息
計	1,822,555	1,774,007	48,548	

支出の部

(単位：円)

科 目	平成27年度 予 算 額	平成26年度 予 算 額	比較増減 (△) 額	摘 要
1 会議費	150,000	150,000	0	総会、幹事会経費等
2 事業費	1,547,555	1,600,000	△52,445	広報・啓発事業経費
3 事務費	10,000	9,007	993	振込手数料
4 負担金	10,000	10,000	0	全国鉄道整備促進協議会負担金
5 積立金	100,000	0	100,000	90周年記念事業積立金
6 予備費	5,000	5,000	0	
計	1,822,555	1,774,007	58,548	

90周年記念事業の部

(単位：円)

前年度までの積立額 (a)	27年度積立額 (b)	27年度末残高 (a)+(b)
0	100,000	100,000

平成27年度負担金内訳

(単位：円)

団体名	負担金額	団体名	負担金額
愛知県	28,000	白川町	6,000
岐阜県	57,000	飛騨市	28,000
岐阜市	28,000	岐阜商工会議所	6,000
高山市	28,000	高山商工会議所	6,000
美濃加茂市	16,000	下呂温泉観光協会	6,000
各務原市	16,000	富山県	57,000
下呂市	28,000	富山市	28,000
坂祝町	6,000	高岡市	6,000
川辺町	6,000	富山商工会議所	6,000
七宗町	6,000		
		合計	368,000

団体名	特別負担金額
富山県	300,000
岐阜県	300,000
富山市	60,000
岐阜市	60,000
高山市	60,000
飛騨市	60,000
下呂市	60,000
計	900,000

決 議

高山本線は、我が国のほぼ中央部において日本海側と太平洋側とを結ぶ交通の大動脈としての役割を担い、沿線各地はもとより中部圏全体の交流の活発化を図り、経済・文化の発展、向上に寄与してきた基幹鉄道である。

これからも高山本線の存在は、太平洋側から日本海側に至る個性豊かな日本の中央部における広域交流圏を形成するうえで必要不可欠であり、沿線地域の産業、文化、生活等の諸機能の整備とあいまって、中部圏の活性化に大きく貢献するものと確信する。

平成27年3月14日に北陸新幹線の長野一金沢間が開業し、首都圏と北陸との時間距離が飛躍的に短縮され、さらに、平成39年にはリニア中央新幹線の東京一名古屋間の開業が予定されており、今後、地域間の交流・連携が一層図られることが期待される。

また、高山本線は沿線に多くの観光地を有するとともに、車窓風景も美しい「観光路線」であり、平成24年1月より始まった外国人観光客誘致のための「昇龍道プロジェクト」の取り組みと相まって、北陸と東海を内陸で結ぶその重要性はますます高まるものと期待される。

このような中、JR東海及びJR西日本においては、今後も、より一層の安全対策、安全運行を確保されることはもとより、北陸新幹線及びリニア中央新幹線開業を機に新たな交流人口の拡大と広域観光の推進を図るため、高山本線のより一層の利便性の向上に努められることが強く望まれるところである。

よって、我々は、高山本線の強化促進に向けて、次の事項について一致協力して、強力な運動を展開するものとする。

- (1) 北陸新幹線との相乗効果やリニア中央新幹線の開業を視野に入れ、所要時間の短縮や列車本数の増加など、旅客輸送サービスの強化改善を推進すること。
 - ・ 特急「ひだ号」の増発
 - ・ 北陸新幹線との乗り継ぎの利便性を確保するダイヤ改正
 - ・ 観光シーズンに併せた臨時列車の運行拡大
 - ・ 利用実態調査への協力
 - ・ 電化及び複線化の促進
 - ・ 部分線増、一線スルー化、分岐器の改良等によるスピードアップ
- (2) 輸送の安全、防災対策を充実させるため、あらゆる角度から強化改善を検討し事故防止に努めること。
 - ・ 危険箇所の保守点検や保安設備の強化等の積極的な推進
 - ・ 災害や事故発生時における機能的な連絡体制の構築
- (3) 安全で快適に利用できる鉄道施設、車両等のバリアフリー化を推進すること。

以上決議する

平成27年8月28日

高山本線強化促進同盟会